

商工にっぽん通巻751号付録  
平成21年12月1日 発行

商工にっぽんブックレット 21

Booklet

〈ベンチャー人間こそ、企業を変える「人財」〉

## 吉田松陰の松下村塾から学ぶ 会社を変える人財選び

株式会社ザメディアジョン 代表取締役兼CEO  
日本ベンチャー大学 理事長代行

山近 義幸 著

商工にっぽん  
2009年12月号付録

はじめに

当社は、角川書店の雑誌『ザテレビジョン』を広島で編集するために20年前に誕生した会社です。出版事業のほか平成2年7月からダイヤモンドグループと提携して人材採用支援を事業の柱として展開しています。

当社は企業への人材採用支援で「3つの条件」にこだわっています。

- 1 新卒採用以外はお手伝いしない。人材採用支援には中途、派遣、職業紹介などの業態がありますが、創業以来かたくなに、新卒採用のサポート一筋に絞る。

- 2 どんなに小さくても、ベンチャー企業や中小企業、地方で活躍する企業、「成長企業」のお手伝いをし、採れるまでサポートし続ける。

- 3 社長さん自らが出てこられて、一生懸命に説明する会社に限る。

現在、東京、大阪、名古屋、広島を拠点に、新卒採用のサポート企業は北海道から鹿児島まで約120社。また毎年、就活生たちを抱持ちインターンシップ、早朝会、新聞アウトプットなど当社独自の泥臭いやり方で育てています。その集大成として2009年、日本一小さな大学を創りました。人間力を磨く1年限定の男子大学です。なぜそんなことをするのか？ 私の故郷山口県の偉人「吉田松陰」先生が主宰した松下村塾のたくさんのキーワードに刺激されました。

## 目次

### 第1章 人財が社運を変える

4

### 第2章 新人が会社を変える

19

### 第3章 新人教育が会社を強くする

26

※松下村塾（しょうかそんじゅく）

安政4年（1857）、吉田松陰27歳の頃、杉家にあつた小屋を補修して、8畳1室に松下村塾を始める。入塾は無料で身分を問わない学び舎。わずか2年で100名弱の若者が学ぶ。高杉晋作や久坂玄瑞、吉田稔麿、入江九一、野村靖、伊藤博文、品川弥二郎など明治維新に活躍した人物がいる。

※吉田松陰先生から学んだキーワード

華夷の弁：たとえどんな場所であつても今、自分がいる場所が華（世界の中心）となる。松下村塾の教育理念に掲げたひとつでもある。

知行合一：知識と行動は一緒でなければならぬ。知識を持つだけでは駄目であり、行動の大切さを訴えている。松陰先生も自ら行動するため、「三十一回猛子」と改名した。

至誠：孟子の言葉「至誠にして未だ動かざる者は、未だあらざるなり」。「誠心誠意もって行動すれば、人は必ず動く」という。松陰先生は死ぬまでこれを貫いた人物。